

～ROAD TO WCGC～ 第10回 BUZZ GOLF 全日本企業対抗ゴルフトーナメント
EAGLE VISION CUP 2026ダブルススクラブル
～ 競技方法 ～

競技方法＜18ホールズ・ストロークプレー＞

1. 2人1組のダブルススクラブル戦とし、18ホールズ・ストロークプレーによって行う。
2. 自チーム2名と他チーム2名が組み合わせてプレーする。
3. チームスコアで順位を競う。
4. スタートホールは指定の打順で、次のホール以降は各ティーイングエリアのベストスコア順でプレーする。
5. 乗用カートプレーの会場では乗用カートへの乗車を認める。
6. セルフプレーの会場において、乗用カートの操作は任意とする。
7. プレーヤーは同じチーム内のパートナー及びキャディがいる場合はキャディからアドバイスを受けることができる。
なお、他のチームのプレーヤーにアドバイスを与えたり、あるいはアドバイスを求めた場合には規則10によりそのホールに2罰打を付加する。
プレーヤーのパートナーは、規則10. 2bに基づいてプレーヤーのキャディがとることのできる行動（同じ制限がある）と同じ行動をとることができる。
8. チーム編成とティショットの制限
ティショットにおいて18ホール（Par3含）ラウンド中、1人5ホール以上のティショットを選択しなければならない。
チーム内のパートナーの1人が欠場した場合は、1人5ホールのティショットを選択する条件は適用しない。
ペアの片方の選手が、途中出場・途中棄権となった場合、5ホールのティショットを採用されていれば罰打は課さない。
9. ティショットからグリーンまで
 - ① ティショットは1ペア2名が打つ（各カテゴリーで使用するティーが異なる）
 - ② セカンドショット以降はペアのベストボールを選択する。
 - ③ 選択したベストボールにマークをする。
そのマークからホールに近づかない半径30cmの半円の中に自分のボールをプレースし、ペア2名が打つ。
※拾い上げたボールは拭くことができる。
※30cm以内であれば、ラフからフェアウェイにもプレースすることができる。
 - ④ 打順はペア内で決めることができる。
 - ⑤ バンカー内のボールを選択した場合は、1人が打つごとにそのバンカーは均すことができる。
 - ⑥ マークは最後の選手がボールをプレースするまで取り除かないこと。
 - ⑦ マークを誤って取り除いてしまった場合、無罰でマークをもとの位置に戻してプレーを再開しなければならない。
 - ⑧ カップインした時点でスコアは確定する。
※先の打順のプレーヤーのショット又はパットがカップインし、スコアが確定した場合、以降の打順のプレーヤーはショット又はパットをすることができない。
10. グリーン上
 - ① グリーン上でも採用するボールを選択する。
 - ② そのボールをマークし、ホールへ近づかない半径15cmの半円内にボールをプレース。
※15cm以内であっても、カラーからグリーンにプレースすることはできない。
 - ③ ペア内がカップインした時点で、そのホールのスコアが確定。
 - ④ マークは最後の選手がボールをプレースするまで取り除かないこと。
 - ⑤ マークを誤って取り除いてしまった場合、無罰でマークをもとの位置に戻してプレーを再開しなければならない。
11. タイスコア時の順位決定
スタートコースに関わらず18番ホールよりカウントバックで決定する。
※ それでも勝敗が決しない場合は同順位とする。
12. 陰悪な気象条件・日没などのため、競技が短縮競技となった場合の順位決定
 - ・ 全チームが9ホールズを消化している場合→競技成立
 - ・ 全チームが9ホールズを消化していない場合→競技不成立
 - ・ 本競技が短縮競技として成立した場合、下記の順でその順位を決定する。
 - ① チームスコア9ホールズの合計で、OUT、INそれぞれの順位を決定する。
 - ② チームスコアが同スコアの場合は9番目にプレーしたホールからのカウントバックで決定する。※ 短縮競技になっても、エントリーフィーやプレーフィーの減額は有りませんのでご了承ください。
13. 競技不成立になった場合
 - ＜予選大会＞
 - ・ 可能であれば、別日程を設けて開催する。
 - ・ 別日程が設けられない場合、予選大会は不開催とする。
 - ＜全国決勝大会＞
 - ・ 別日程を設けて開催する。
 - ・ 別日程で、会場が変更になる場合がある。

～ROAD TO WCGC～ 第10回 BUZZ GOLF 全日本企業対抗ゴルフトーナメント
EAGLE VISION CUP 2026ダブルスクランブル
～ 大会ルール ～
(全予選・全国決勝大会共通)

1. ゴルフ規則
大会ルール及び日本ゴルフ協会(JGA)ゴルフ規則を適用する。
※状況により、ゴルフ場ローカルルールを優先する場合がある。
2. 競技委員会の裁定
競技委員会は競技の条件を修正する権限を有し、すべての事柄について競技委員会の裁定を最終とする。
3. 使用球についての規格及び規則
R&A公認球リストを採用する。ワンボール条件は適用しない。
4. ドライビングクラブ
競技者のドライバーはJGAの適合ドライバーリストに掲載されたクラブヘッドとする。この条件の違反の罰は、競技失格。
※新溝規定は適用しない。
5. 距離計測機器
距離計測機器の使用を認める。
(種類不問: **高低差を計測する機能も使用可能**)
6. キャディとカート
各競技者はラウンド中に乗用カートへ乗車することができる。(徒歩プレーの会場除く)
大会運営事務局とゴルフ場によって指定されたキャディ以外は使用できない。
違反があった各ホールに対し2罰打。ただし、1ラウンドにつき最高4罰打まで。
7. ホールとホールの間での練習禁止
競技者は、プレーを終えたばかりのホールのグリーン上や、その近くでは練習ストロークしてはならない。
これに違反して練習ストロークをした場合、競技者は次のホールに2罰打を加えなければならない。
ただし、そのラウンドの最終ホールのときは、そのホールに2罰打を加える。
(前半と後半のインターバル時の、指定練習グリーンでのパッティング練習を除く)
8. 特設ティー、ドロップエリアの使用について
特設ティー及びドロップエリアの使用は、各会場のローカルルールで定める。
なお、特設ティーでは球をドロップしてプレー再開しなければならない。
9. プレーの一時中断と再開
 - (1) プレーの一時中断(落雷などの危険を伴わない状況)については、ゴルフ規則5.7a、b、c、dに従って処置すること。
 - (2) 陰悪な気象状況にあるため、競技委員会の決定によりプレーが即時中断となった場合、すべてのプレーヤーが直ちにプレーを止めなければならない、競技委員会よりプレー再開の指示が出るまでプレーを再開してはならない。
通常の場合、その組のすべてのプレーヤーがホールとホールの間にいる場合、プレーヤーたちはプレーを止めなければならない、競技委員会よりプレー再開の指示が出るまで別のホールを始めるストロークをしてはならない。
ホールのプレー中であったときは、プレーヤーはプレーを止めるか、そのホールを終了するか選択することができる。
プレーヤーがすぐにプレーを中断しなかったときは、ゴルフ規則20.2に決められているような、罰を免除する正当な事情がなければ、そのプレーヤーは競技失格とする。(ゴルフ規則5.7bの違反)
 - (3) プレーの一時中断と再開の合図について
通常のプレー中断: カートに搭載した連絡装置で連絡。(キャディがいる場合は、キャディ経由して連絡。)
陰悪な気象状況による即時中断: カートに搭載した連絡装置で連絡。(キャディがいる場合は、キャディ経由して連絡。)
プレーの再開: カートに搭載した連絡装置で連絡。(キャディがいる場合は、キャディ経由して連絡。)
※その他状況により連絡方法が異なる場合がある。

10. 競技委員会のプレーのペースの方針

プレーヤーは、ホールでのプレー中、またはホールとホールとの間のいずれでもプレーを不当に遅らせてはならない。(ゴルフ規則5. 6a)
速やかなプレーの推奨と実行のため、当競技委員会はプレーのペースの方針を設定する。(ゴルフ規則5. 6b(3))

① 組の全選手に1打付加。

- ・ その日のトップスタートの組は、前半のハーフプレーの規定時間より20分以上越えた場合、前半最終ホールのスコアに加える。
- ・ 前の組と15分以上離れているのに急ぐ気配がない場合、又は前半のハーフプレーの規定時間より20分以上越えた場合、当該ホール又は前半最終ホールのスコアに加える。

※1 規定時間とは、当該ゴルフ場のハーフプレー時間を指す。

※2 時間の確認は、競技委員会が確認した時間を指す。

- 1) 前半終了後、アテスト会場に中間スコアシートを提出した時
- 2) プレー終了後、組が戻ってきたことが確認できた時

② 2回目の違反:組の全選手に2打付加。

③ 3回目の違反:組の全選手は競技失格。

※プレーヤーは次のような特定の理由のために、少しの遅れが認められる場合がある。

- ・ プレーヤーが競技委員会に援助を求めている場合。
- ・ プレーヤーが怪我をしたり、病気になった場合。
- ・ 別の正当な理由がある場合。

11. プレー進行上の措置

コールオン方式。

パー3のホールに限り、プレーのペースを全体的にスピードアップするため、先行組のプレーヤーは、自分の組の誰もまだパットを始めていない段階で後続組のプレーヤー全員がティーイングエリアまで来ている場合、グリーン上にある球の位置をマークして総て拾い上げ、後続組のプレーヤー全員がティーショットを済ませるまでプレーを控え、後続の組にティーイングエリアからプレーさせることができる。

先行組からプレーすることを求められ、後続組がそれに応じたときは、その段階で後続組の各プレーヤーは自分の球が他のプレーヤーのプレーを妨げたり援助することになりそうだと思うときは何時でもその球を拾い上げて良い、との許可を先行組に与えたものとみなす。

12. 競技の条件やローカルルールに追加、変更のあるときは、スタートに掲示し告示する。

2026年8月28日
全日本企業対抗ゴルフーナメント
競技委員会